

混播に優れた シロクローバ 中葉型 品種

「マキバシロ」

放牧利用、採草・放牧兼用利用



○ 栽培適地

国内の放牧草地、特に北海道・東北地域等寒冷地

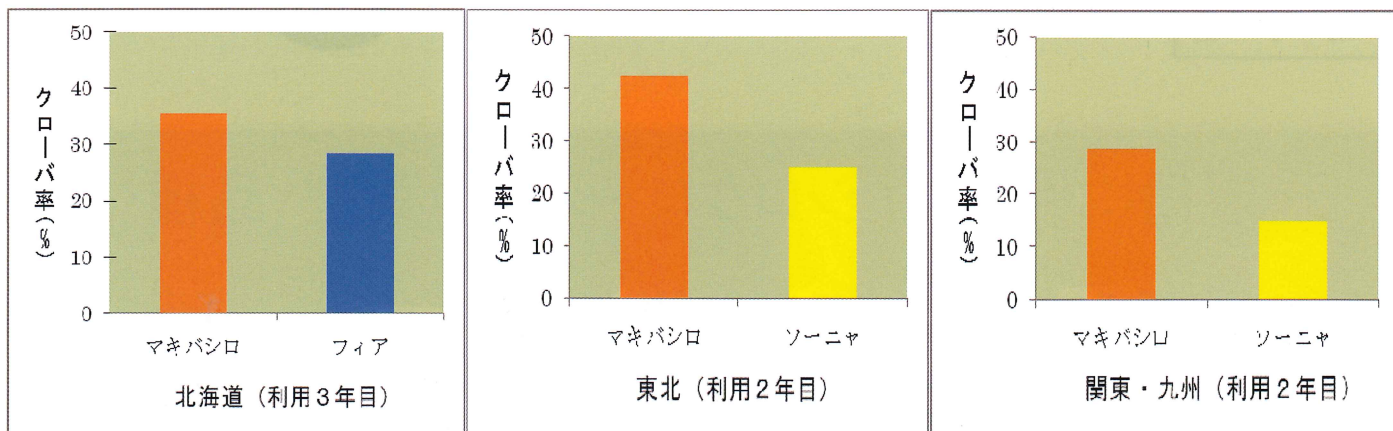


図1 利用2, 3年目の年平均クローバ率

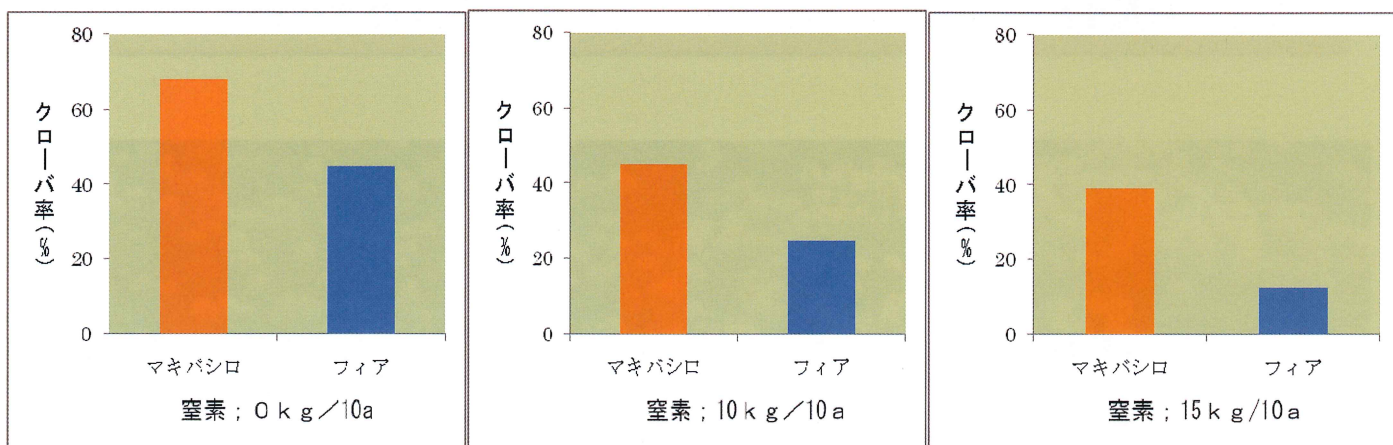


図2 クローバ率に対する窒素の影響（於東北農研センター）

栽培のポイント

- ①中葉型品種の中では生育が旺盛なため、比較的競合力の高いイネ科草種との混播種に利用！
- ②チモシー等との混播では、クローバの優占に注意が必要！

東北農業試験場（現東北農業研究センター）にて1980年に育成された。OECD登録品種。旧系統名は「東北9号」である。海外からの導入品種（30品種）を母材に、中葉型で匍匐茎の伸び、耐病性、頭花数などにより選抜した8栄養系からの合成品種です。

特性 中葉型の中では、やや大きめの小葉サイズを持つ。頭花数が多く採種性が優れています。中葉型ではやや競合力の強い品種であり、オーチャードグラスなど競合力の強いイネ科牧草と混播しても持続性が優れています。放牧、採草とも使用でき、1番草あるいは2番草収穫後に放牧利用する兼用利用にも適しています。広い適応性を持ち、北海道～長崎県の1道9県で奨励・準奨励品種に採用されています。

種子供給 種苗会社より市販されています。

【育成機関】 問い合わせ先:

(独)北海道農業研究センター 酪農研究領域 飼料作物グループ
TEL 011-857-9272 (直通)